

道徳的価値と誠実に向き合い、自己の生き方を深く考える道徳教育の在り方  
～導入段階における指導や評価の工夫、各教科等との関連を意識した取組を通して～

錦江町立田代小学校 教諭 瀬戸山 宗高

## 目 次

<b>1 研究主題設定の理由</b> . . . . .	2
(1) 今日の社会的課題及び新学習指導要領から	
(2) 学校教育目標及び本校における道徳教育の全体構想から	
(3) 児童の実態から	
<b>2 研究の仮説</b> . . . . .	3
<b>3 研究の内容</b> . . . . .	4
<b>4 研究の実際</b> . . . . .	4
(1) 仮説1について	
ア 学年ごとの発達の段階を考慮した内容項目が同じ主題設定の工夫	
イ 道徳的価値を理解する段階における学習活動の工夫	
(2) 仮説2について	
ア 内容項目との関連を踏まえた「別葉」を活用した授業の工夫	
イ 自己の生き方を深く考えさせるための学習環境の整備	
(3) 仮説3について	
ア ポートフォリオ評価と児童の自己評価を取り入れたワークシートの作成・活用	
イ 道徳授業において児童の見取りを蓄積する評価シートの作成・工夫	
<b>5 研究の成果と今後の課題</b> . . . . .	9
<b>6 研究のまとめ</b> . . . . .	10

### 【引用・参考文献】

- ・小学校学習指導要領（平成29年3月） / 文部科学省
- ・小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」 / 文部科学省
- ・道徳教育の抜本的充実に向けて / 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課
- ・論点メモ（道徳科における評価について 平成28年1月） / 文部科学省
- ・道徳教育（2017年4月・5月・7月・10月号） / 明治図書
- ・「特別の教科 道徳 ポイント解説」 / 日本文教出版

# 1 研究主題設定の理由

## (1) 今日の社会的課題及び新学習指導要領から

最近の知識・情報・技術をめぐる変化の速さは目まぐるしいものがあり、情報化やグローバル化といった社会的変化が我々の予測を超えて進展している。そのような状況の中、よりよい社会と幸福な人生を自らの力で創り出していくことが重要になる。そのために、道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されている。そのことは、平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が新たに「特別の教科 道徳」と位置付けられたことから明らかであり、いよいよ平成 30 年度から全面実施される。

平成 29 年 3 月 31 日に公示された新学習指導要領における道徳教育の目標は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。」とされていることから、一人一人の児童が様々な道徳的価値に誠実に向き合い、自分自身の問題として捉え、考え続ける道徳教育の推進が必要と思われる。

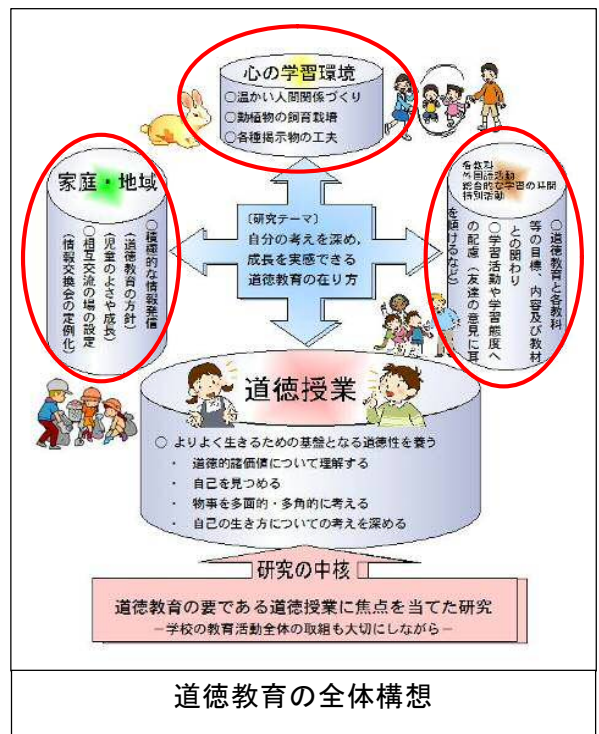
## (2) 学校教育目標及び本校における道徳教育の全体構想から

本校は、「自ら学ぶ意欲をもち、豊かな心でたくましく生きる田代っ子を育てる。」という学校教育目標のもと、いくつかの努力点を設定し、その具体的方策を挙げ、日々の教育活動に生かしている。道徳教育に関する具体的方策は以下の通りである。

- ① 平成 30 年度完全実施に向けた取組
- ② 年間指導計画の完全実施と指導過程の工夫（問題解決的な学習など）
- ③ 「道徳の時間」の指導の充実(H27～28 大隅地区道徳教育研究指定校)
- ④ 「生命尊重」や「情報モラル」の観点からの指導の充実(教科化時代の道徳)
- ⑤ 教科や特別活動等との関わりを密にした道徳的行為の実践

また本校は、2 年前に道徳教育の大隅地区研究指定を受け、様々な研究及び実践を行ってきた。これまでの児童の道徳性の育成の中心は、道徳教育の要とされる道徳授業であり、問題解決的な学習や体験的な学習等の要素を取り入れながら「考え、議論する」道徳の授業が展開できるよう研究を重ねてきた。その一方で、右図にある通り「心の学習環境」、「家庭・地域」、「各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動」の充実を図ることも、道徳授業と同様に重要であり、それらとの関連を意識した取組を行う必要がある。

さらに、「特別の教科 道徳」における評価は、「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とされている。本校においてもこれまで「パフォーマンス評価」と「ポ



トフォリオ評価」の二つの評価に重点を置いて研究を進めてきた。そして昨年の夏、専門家会議に基づいた道徳科の学習評価の在り方と指導要録の参考様式が通知された。

そこで、児童の学習状況をきちんと把握し、個々の道徳性がどのように成長したかを適切に指導要録等に適切に記入できるような評価の在り方について考えることが必要である。

観察による評価

学習活動における表現や態度

- 発言内容
- 意見等を聞く態度
- 表情(学習意欲、価値の自覚)
- 動作化、役割演技
- 道徳的实践

パフォーマンス評価

記録の積み上げによる評価

学習過程や成果の積み上げ

- 作文やノート(教科等を含む)
- ワークシート
- 日記
- アンケート
- 「私たちの道徳」など

ポートフォリオ評価

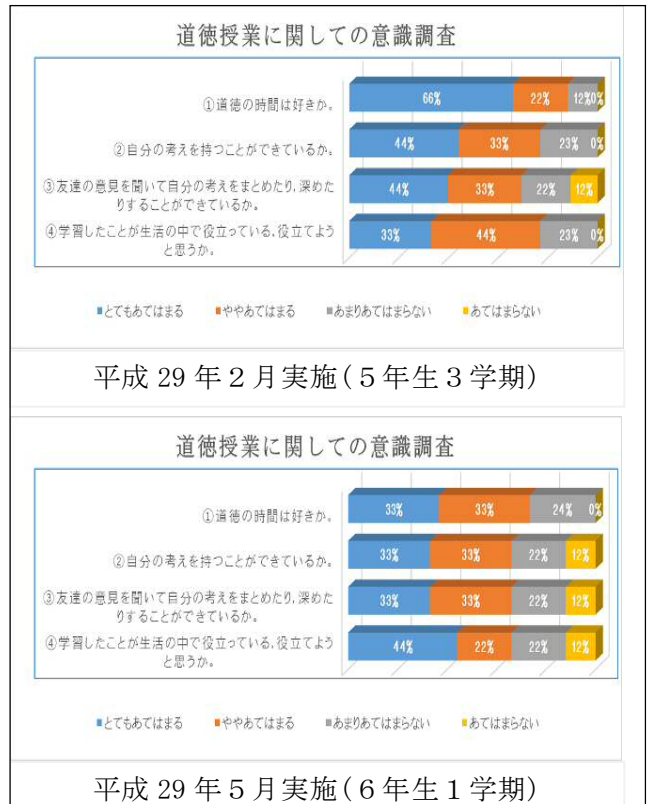
本校の評価の在り方と、指導要録の様式



(3) 児童の実態から

年度当初、担任になった6年生児童9人に昨年度と同様の内容で道徳の授業に関するアンケートを行ったところ、以下のような回答が得られた。

6年生になった当初も、大半の児童が道徳の時間は「好き」と答えているものの、その割合が昨年度と比べて減ってきている。文部科学省の道徳教育実施状況調査においても、学年が上がるにつれて道徳の授業を「楽しい」「ためになる」と感じている割合が低下しているという結果が出されたが、今一度、我々がこれまで研究を行ってきた道徳の授業が、画一的で形骸化したものになっていなかったかを振り返り、児童が意欲的に取り組むことができるよう指導法を見直す必要がある。また、他の質問においても、前年度に比べてやや意識が下がっている。これらのことから、道徳授業において、児童が道徳的価値に誠実に向き合うような問題意識のもたせ方や、友達の見解を聞いて主体的に「考え、議論する」場面の設定、道徳的価値について自分の考えを深め、生活に役立てようとする意欲・態度をもたせるなど、更なる授業の工夫・充実が必要である。



以上のことから本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

<仮説1>

主題設定を明確化し、道徳的価値を理解できるよう学習過程を工夫すれば、自分との関わりも含めて道徳的価値に誠実に向き合うことができるのではないかと。

<仮説2>

各教科との関連を意識した取組をしたり、学習環境を整備したりすれば、継続的に道徳的価値に触れるとともに、自己の生き方を考え続けることができるのではないかと。

<仮説3>

児童一人一人を認め、励ますことができるような評価を行えば、自らの成長を実感し、意欲を高め、道徳性の向上につながるのではないか。

3 研究の内容

(1) 仮説1について

- ア 学年ごとの発達の段階を考慮した内容項目が同じ主題設定の工夫
- イ 道徳的価値を理解する段階における学習活動の工夫

(2) 仮説2について

- ア 内容項目との関連を踏まえた「別葉」の活用
- イ 自己の生き方を深く考えさせるための学習環境の整備

(3) 仮説3について

- ア ポートフォリオ評価と児童の自己評価を取り入れたワークシートの作成・活用
- イ 道徳授業において児童の見取りを蓄積する評価シートの作成・工夫

4 研究の実際

(1) 仮説1について

- ア 学年ごとの発達の段階を考慮した内容項目が同じ主題設定の工夫

高学年の児童は、これまで道徳の授業を中心に様々な経験を通して、道徳的価値については理解している。しかし、その価値に対する自分の見方・感じ方・考え方をもつまで高めることができなかつたように思われる。それは、これまで、道徳的価値に対して主題の変わらない同じ内容の授業を行い、意図的ではないにせよ、教師による価値の押しつけにつながる授業が展

開されてきたことが原因であると思われる。「特別の教科 道徳」では、低・中学年の内容項目が高学年の内容に発展されるように構成されている。そこで、夏季休業中に学習指導要領解説をもとに内容項目を整理し、これまで児童がどのような主題で道徳の授業を受けてきたかを確認し、今後、使う資料と照らし合わせながら主題を決め、授業を行うようにした。

例えば、「家族愛、家庭生活の充実」に関する内容項目について整理してみると、6年間一貫して

【家族愛・家庭生活の充実】						
年次	1・2年	3・4年	5・6年			
内容	父母・祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いを して家族の役に立つこと。	父母・祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し 合って <u>楽しい家庭をつくること。</u>	父母・祖父母を敬愛し、 <u>家族の幸せを求めて、 進んで役に立つこと</u> をすること			
単元	家の手伝い・家族の役に立つ	協力・楽しい家庭	家族の幸せ・進んで役に立つ			
年次	1年	2年	3年	4年	5年	6年
単元	大切な日曜日	サバンナの子ども	お兄ちゃんだよ	お母さんのせい求書	わが家の思い出	はじめてのアンカー
主題	家ぞく大好き	家ぞくのために	楽しい家庭	家族の一員だったら	家族のぬくもり	家族の思い・誇り
単元	まどうさんリコーライズ	おふろプール	母の日のプレゼント	一ましの紙貨	〇△□の中のわたし	誰かが書いた
主題	おとうさん ありがとう	わたしと家ぞく	大切な家族	家族の温かさ	家族の幸せを求めて	家族とともに

とくに「うさぎの家」という名がある。これは、うさぎが家族の存在を、この場所からかけがえない自分の居場所であり続ける家庭、大切な家族とのきずなをより強いるのに、家族みんながもっと幸せになるように、私にできることがあつたらあつたら。

**わたしの原点はここにある**

おじいさんの入居によって、いつもは静かだった家族の気持が揺らぎました。

本年度の授業

内容項目における資料・主題の整理や、過去の掲示物・板書等をもとに過去の授業を生かした主題の設定



読ませる前に、主題に迫るために必要とする情報を説明したりするなどして、意欲的に資料に向かわせるようにした。その際、視聴覚機器を用い、児童の興味・関心を引くような工夫も行った。

## (2) 仮説2について

### ア 内容項目との関連を踏まえた「別葉」を活用した授業の工夫

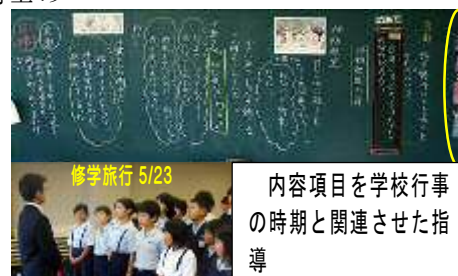
道徳教育の目標に、「学校や児童の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。」とある。そのため、道徳の授業で指導する内容項目と他教科等との関連を図るため、本校では、昨年度から「別葉」を作成している。本年度は昨年の「別葉」をもとに、それぞれの教科等において追加する単元や内容をさらに抜き出したり、学校重点目標や学年重点目標を分かりやすく明記したりした。さらに、各教科等における指導の内容と時期についても分かりやすく整理した。そして、この「別葉」を各教科等の授業前にどの内容項目と関連しているかを確認し、他教科等においても児童が道徳的価値に触れながら学習を進められるようにした。

内容項目	教科等	関連
正直・誠実	国語	〇
相互理解・寛容	国語	〇
勤労・公共の精神	総合的な学習の時間	〇
善悪の判断・自立、自由と責任	総合的な学習の時間	〇
心身の調和のとれた発達と個性の伸長	総合的な学習の時間	〇

内容項目との関連を踏まえた「別葉」



例えば、国語で狂言を通して、現代の言葉遣いとの違いや昔の人のものの見方や感じ方をつかんだり、表現を工夫して発表したりすることが単元の目標となっている「柿山伏」がある。この話の内容の理解を通して、「正直・誠実」を、児童同士の発表を通して「相互理解・寛容」の内容項目と関連して指導することができる。そのことを意識して道徳と国語の授業を進めるようにした。



また、「別葉」を作成するに当たっては、それぞれの教科の学習する時期を踏まえ、それに合わせた内容項目を決めているが、それらの時期が重複してしまうことが多い。その場合は、学校行事及び体験活動の時期を優先するように共通理解がなされている。6年生は5月下旬に修学旅行がある。それに合わせて「善悪の判断・自立、自由と責任」の内容項目を入れ、行事と関連付けた指導を行うことで、道徳的価値に継続的に向き合い、自分の道徳性について考えさせるようにした。

さらに、特別活動の目標（「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」）には、道徳的価値に関わるものが多く含まれているため、特別活動、その中でも学級活動の充実を図ることにした。学級活動の共通事項に、「清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の



理解」がある。学級での話し合い活動の中で、「最上級生としての自覚をもった朝のボランティア活動ができていない。」という課題が出され、その解決策を話し合った。そして決定した事項を守る意識をもたせるために、その後の道徳の授業を、「勤労・公共の精神」に関する内容項目に変更して行うことにした。先述した通り、学校行事や体験活動の時期を優先して「別業」は作られているので、それに影響のない範囲で、臨機応変に内容項目を変更し、学級活動の共通事項を意識した指導を行うようにした。

イ 自己の生き方を深く考えさせるための学習環境の整備

道徳の授業を通して深めた道徳的価値は、学習した直後は児童も自分自身の問題として捉え、今後の生活場面に活かそうとする意欲が感じられたが、時が経つにつれて徐々にその意識が少なくなってきたように思われた。そこで、授業で触れた道徳的価値について考え続ける姿勢が保つことができるような環境づくりを行うことにした。

まず、教室背面に「道徳のあしあと」としての掲示スペースを確保した。道徳の授業後、「心のノート」

や「わたしたちの道徳」などを参考にしながら授業で扱った内容項目に関係する話題を授業の板書とともに一枚の紙にまとめて掲示し、視覚的に子どもたちの記憶に残り続けるようにした。

また、自分と異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えたりする授業を展開するためには、友だちの意見をしっかりと聞き、自分の立場をはっきりさせて話し合うことができるような学級の雰囲気を作らなければならない。本校の道徳の全体構想でも、学習態度への配慮を挙げていることから、「だれもが自分の思ったことを言えて、みんなが最後まで聞いてくれるクラス」を学級のめあてとして

取り上げ、教室右前面に掲示し、常に意識できるようにした。そして、道徳的価値について自ら考え、行動できるようにするため、「今月の詩」を掲示し、毎日行う朝の会で声に出して読ませることにした。詩の内容は道徳の内容項目に関連したものをできるだけ取り上げるようにした。

さらに、学校生活の中で児童自らが課題や目標を見付け、自己の生き方についての考えを深めたり、自分の成長を実感できるようにするために、「やりきり玉」というコーナーを設置した。「責任のある行動をする。」「誠実に、明るい心で生活する。」「自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行う。」「働くことのよさを知り、みんなのために働く。」といった道徳の内容項目に挙げられているような道徳的価値を意識して行動することができた場合は、教室後方に設置したビンの中







マンス課題と設定して評価するパフォーマンス評価や、様々な場面において、児童がどのような発言をしたり、他者との話し合いがなされていなかったりするなどを見るエピソード評価については、授業の中で評価をしなければならず、しかも、授業と並行してじっくりと評価を行うことができないので、評価の在り方について工夫する必要がある。

道徳科 評価			
第15回 資料名【自ら可能性を探らない】			
内容項目・主題【自分の心をコントロールする】 節度 節制			
名前	理解	考え	自己
			備考
		00	↑ 授業の中での主題にせざる発表
	↑	0	↑ うまくいかないとこの解決方法(導入)
		00	自分の行動 2回発表
		0000	発表2回...考え変更 自己を見つめる
	↑	0	↑ 自分だけの意見(いるわろ?)→自己を見つめる
		0	↑ 自分の行動1回発表
			↑ 道徳的価値理解
		000	発表3回...相手の意見に対し、自分の考えを
		00	発表2回 自分の経験に照らし合わせた

**授業の中で行う「評価シート」**

そこで、それらの評価を行うための簡単な「評価シート」を作り、短時間で授業の中で評価できるようにした。

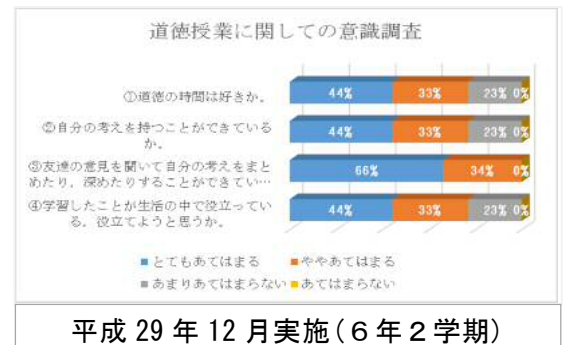
評価項目は、「道徳的価値の理解」、「自分の考えの発表」、「自己を見つめ、よりよい自分への目指し」とし、児童全員を評価することはせず、道徳的価値に誠実に向き合っている、自己を振り返り、今後の自分について深く考えていると印象を受けた児童に「↑」などの記号を付けることとし、マイナス面は記入しないことにした。また備考欄には、児童の発表の内容や、それに基づく考え方などを簡潔に記入した。その後、児童のワークシートにある自己評価や感想などと照らし合わせて、総合的に評価を行うことにした。これらの評価を蓄積し、来年度、指導要録や通知票に記入する際には、特に顕著なものを取り上げ、記述する予定である。

## 5 研究の成果と今後の課題

現在担任している6年生に、年度当初に行った道徳に関するアンケートと同様のものを行い、意識の変容について調べてみた。その結果を含めて成果と課題について考えていきたい。

### (1) 成果

- ア 意識調査から進級した当初は昨年度に比べて道徳授業に対しての意欲が減っている結果が出たが、12月に同様の調査を行ったところ、どの項目も少しではあるが伸びていた。特に「学習したことが生活の中で役立っている。役立てようと思うか。」の意識が大きく伸びていた。学んだことを実生活の中でも深く考え続ける姿勢が出てきたのではないかとと思われる。
- イ 教材資料を分析し、同じ内容項目でも異なる主題を設定したことで、今までと違う発問や授業の展開ができ、これまで同じ内容項目で学習してきた高学年の児童でも意欲的に価値と向き合う姿が見られ、その後の考え方や感じ方を交流する活動なども活発に行うことができた。
- ウ 視聴覚機器の活用やテーマ発問など、導入段階の工夫を図ったことで、ねらいとする道徳的価値を児童が早く理解することができるようになるとともに、導入段階から終末段階までの授業の流れをスムーズに行うことができた。
- エ 昨年作成した別業を工夫、改善したことで、道徳科の内容項目とそれと関連する他教科の指導の内容や時期が分かり、それらを意識した教育活動を展開できるようになった。
- オ 教室の背面にこれまでの授業の様子を掲示するなど、工夫した環境づくりを行ったことで、日常的に児童の視覚に触れ、自己の生き方について深く考え続けることができるようになった。



カ 児童の自己評価も取り入れたワークシートを作成したことにより、様々な角度から児童の心の変容を捉えることができるようになった。

キ 授業の中で簡単にできる評価シートを作成したことで、児童の学習の様子や心の変容などが記録でき、ポートフォリオ評価とも関連付けた総合的な評価ができるようになった。

## (2) 課題

ア これまでの学習と主題が重なる場合においても、全体の構成や発展性を考慮しながら指導の在り方を追究する必要がある。

イ 発問の仕方によっては、実感を伴って理解させたい道徳的価値を、観念的に理解させてしまうことがあったように思える。効果的な発問について考える必要がある。

ウ 特別活動をはじめとして一部の教科においては、道徳科との関連を図った授業を展開することができたが、他教科についても一層推進しながら取り組まなければならない。

エ 評価の方法を増やしたが、多様化する価値観の中で、児童の内面にある道徳性を評価することは難しい。今後、どのような手立てが必要か考える必要がある。

## 6 研究のまとめ

来年度から、道徳科が全面実施されることになる。道徳科はこれまでと同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の要となる機能は引き継いでいる。変わったのは指導の在り方で、これまでの登場人物の心情に偏った指導ではなく、道徳的価値についての理解をもとに、物事を多面的・多角的に考えながら自己を見つめ、その生き方について考え、よりよい自分を目指すことをねらいとした指導に転換することである。これまで道徳の授業を長いこと経験し、多少学習に対する意欲が薄れてきた高学年の児童にとっては、道徳的価値を自分の問題として捉え、誠実に向き合う姿勢を導入段階で持たせることができれば、その後の指導もスムーズに進むのではないかと思い、様々な取組を行ってきた。その結果、導入から終末までの授業の流れがスムーズになり、その価値が児童の意識に強く作用し、授業が終わっても考え続ける姿勢をもつことができたように思える。今後も様々な授業改善に取り組み、さらに充実させたい。また、来年度から指導要録や通知表に記入することになる評価においても、様々な評価の在り方を試すことで一定の成果を挙げたように思う。

しかし、授業の中で児童の内面にある成長を評価することの難しさも同時に感じた。今後も評価の在り方については追究していきたい。

児童の道徳性は一気に身につくものではなく、徐々に養われるものであるが、教育活動全体で様々な機会を捉えながら計画的な指導を行えば、成果が出るものと思われる。今後も粘り強く研究を重ねていきたい。